



はるあもりほい

●社会医療法人創和会広報誌はあもりにい / 発行 理事長 重井文博
令和6年5月1日発行

幸町記念病院 院長に就任して ～2024年度のターゲット～

幸町記念病院 院長 田中 信一郎

2024年4月に院長に就任して1か月になります。この間、幸町記念病院で療養されている患者さんやスタッフの方々、そして幸町記念病院がお世話になっている関係施設の皆さまとお近づきになれるよう日々過ごして参りました。

一方、幸町記念病院として2024年度に何をなすべきかを定めて、スタッフと共に新たなスタートを切ることを考えました。本年度は三つの目標を掲げてまい進する所存です。

◆想像と創造を意識したチーム医療を展開する

各専門職が互いの能力と役割を想像し認め合い、多職種によるチーム医療を創造していく。そして木を見て森を見ずにならぬように、想像力を働かせ、第三者の視点から自分たちの業務の優れているところや足りないところを理解する。そして、より良い改善に向けて新たに進むべき道を創造していこうと思います。

◆凡事徹底に努めることを意識して業務に従事する

当たり前のことを徹底して続けることで非凡な成果が得られることを「凡事徹底」と言います。

日常の中で業務の改善を心がけ、新しい知識や



技術を身に付けて、より良い透析医療をつくりあげていくことが、幸町記念病院での「凡事徹底」に当たると考えます。スタッフ一人ひとりがこのことを意識し、業務に従事します。

◆患者さんとスタッフの安心と安全が保障される環境を作る

患者さんとスタッフの安心と安全を保障する。そのためには、患者さんと私どもスタッフの信頼関係が築かれ受け継がれていくことが大切な一つになります。本年度は、スタッフが自信をもって医療を提供できる職場風土を構築することで、患者さんに安心・安全な医療を提供することに努めます。そして、患者さんとスタッフが相互に尊重し合うことにより、ハラスメントや不当な要求が存在しない病院環境を目指します。

このような目標を掲げて、「生きることの尊さと健康を維持できる幸せを、患者さんとそのご家族と共に」の理念のもとに、この一年間を務めて参ります。

しげい病院

2024年度の事業方針 ～変革の年、禍転じて福となす～

しげい病院 院長 有元 克彦



創和会にとっても、しげい病院にとっても、2024年度は変革の年になりそうです。

社会医療法人として

4月1日、創和会は社会医療法人になりました。病院ビジョンに掲げた「高梁川流域のへき地医療支援」の一環として、新見クリニックの透析診療支援と成羽病院の認知症診療支援の実績が認められたわけで、診療に赴いた先生方をはじめ、関係した職員の皆さんに感謝します。社会医療法人になったことで「健康増進施設はあもにい倉敷」との経営統合が実現しました。通所系サービス連携、メディカルフィットネス講座開講など、法人の間として職員の交流を進めます。また、病院で営利事業の展開が可能となりますので、皆さんからもアイデアを寄せてください。

透析患者減少とポストコロナ

透析医療についても大きな変化がありました。日本透析医学会の2022年末統計調査で、調査開始以来増加を続けてきた透析患者数が初めて減少しました。CKD対策の効果であれば喜ばしいことですが、この秋の「しげい腎クリニック早島」の開院も控えています。今まで以上に透析医療の質向上と、患者さんのニーズに応える透析医療の提供が求められます。

しげい病院では2020年から4年間にわたって新型コロナの透析患者診療に多大な貢献を行い、県行政・医師会・患者会からの期待に応えたと自負しています。皆さんの協力があったからこそ成し得たことで、改めて感謝します。しかし、4月から新型コロナは完全に通常医療に移行しました。専用病床を確保するため17床が使えない状態での病棟運営から、コロナ以前の病床数に戻ります。病床確保料がなくなる中で、コロナ以前の入院患者数に戻していくことが喫緊の課題です。

透析とリハビリに次ぐ新たな診療の柱とは

「透析とリハビリテーションを中心に地域医療に貢献する」ことを病院ビジョンにあげているように、診療の柱が透析とリハビリテーションであることは今後も変わりありません。一方で基本方針に掲げた「地域医療構想・地域包括ケアに対応できる病院機能確立」ことは、いわば地域のニーズに応えることです。透析とリハビリテーションで地域のニーズに応えていくことはもちろんですが、これから最も求められる医療のひとつに、高齢者救急医療があげられます。

今後も進む高齢化に伴って、軽症の高齢救急患者の増加が見込まれています。中でもかかりつけ医を持たない高齢患者の救急が高度急性期病院の診療を圧迫することが懸念されています。オミクロン株の流行で正に懸念通りの事態となり、この地域でも医療は崩壊寸前まで追い込まれました。この経験をもとめて、倉敷中央病院を中心として在宅診療所と近隣の病院が協力して高齢者在宅救急に対応する取り組みが始まっています。そのなかでしげい病院が担うべき役割として最も期待されているのは、高度急性期病院からの軽症高齢救急患者の早期転院受入です。これが年間重点目標の一つとして挙げた「高齢者救急に対応できる体制の整備」です。今回の診療報酬改定で新設された「地域包括医療病棟」の機能こそが高齢者救急を担う病棟機能です。高齢者救急を透析とリハビリテーションに次ぐ新たな診療の柱と位置づけて、「地域包括医療病棟」の可能性を探っていきたいと考えています。

禍転じて福となす

逆風が吹く苦しい状況ですが「ピンチはチャンス」また「禍転じて福となす」とも言います。新たなしげい病院を目指して一丸となって進んでいきましょう。

重井医学研究所附属病院

2024年度の事業方針

～「連携」して「変革」を成し遂げ、
幸せを、さらに多くの人と共に～

重井医学研究所附属病院 院長 真鍋 康二



新型コロナウイルス感染症による成長を活かす

新型コロナウイルス感染症の流行という急速な環境変化に4年間、私たちも試行錯誤しながら対応しました。2020年パンデミックの「始まり」の外来と入院の医療需要変化に対して提供できる診療内容・治療を変化させ、新たな領域の入院と外来を受け入れました。さらに、2023年の「終わり」の医療需要の変化にも対応しました。

皆さんの大変なご尽力により成し遂げた「成長」を、今年も活かしていきたいと考えます。

医療需要の急速な変化に対し「変革」を目指す

新型コロナウイルス感染症流行中にも高齢者を「治し、支える医療」の必要性は拡大し続けて、2024年度は高齢者の医療需要の急速な増大に対応する「変革」の数年間の始まりの年です。中等度の病状の高齢者救急への適切な対応体制も構築しつつ（「地域包括医療病棟」が相当か）、入院患者さん一人ひとりの生活機能と環境を踏まえた治療で身体機能の回復・維持と心の安定を図り、全人的医療を目指します。

人生の最終段階までの適切な医療対応のために、今まで以上に地域の診療所、介護施設、訪問看護師・ケアマネージャーなどと共に質を高め合う「連携」を広げていき、重井医学研究所附属病院の訪問診療の役割の拡大も図ります。

透析医療の中心的存在として、高齢化する患者さんにより良い透析を提供できる体制を目指し、しげい病院・幸町記念病院とともに10月開院の「しげい腎クリニック早島」と「連携」してさらなるニーズに応え、慢性腎臓病の進行予防にも腎不全診療を担う病院として引き続き貢献します。

医療を通じて職員と地域社会の幸せを確保する

やりたいこと（will）、やらなければならないこと（must）、できること（can）の三つが一致することが「生きがい」や「幸せ」につながると言われます。職員が意欲（will）を持って地域に期待される診療（must）をやり遂げる（can）幸せを得ることは、地域社会の幸せにつながると信じています。敬意をもって協力し協力し合う職場を達成すべく、職員間の「連携」をさらに向上させる職場風土の「変革」に、協力をお願いします。

「生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に」の病院理念など、変えてはならないものを変えない冷静さと、変えるべきことを「変革」する勇気と、それらを判断する知恵を持って「連携」して、歩んでいきましょう。

生きることの尊さと健康であることの幸せを、
すべての人と共に

生命の尊厳と人権を尊重した良質な医療を通じて、**地域の信頼**に応えます
知識・技術を向上して敬意を持って協力し合い、**チーム医療**を実践します
地域社会への持続的な貢献を目指し、**健全経営**に取り組みます

↑
変革と連携

新入職員研修を実施

～今年もたくさんの新入職員を迎えました～

■しげい病院

医療支援部 総務課 比津 守弘

4月1日（月）より5日間の日程で新入職員研修を行いました。前年同様に毎週1回1日の研修を1か月かけて完走する研修となっています。幾度の日程調整も快く引き受けていただいた関係各位におかれましては、ご協力ありがとうございました。

今年度の新入職員研修は、学生から社会人への意識改革、ビジネスマナーの習得向上を目指すことを主眼とし、グループワークや各種演習も取り入れながら行いました。

業務を遂行していく中で、成功することも失敗することもあると思います。分からないことがあ

ればいつでも、頼れる先輩や上司が優しく教えてくれるので、一人で抱え込まず、すぐに報告・連絡・相談をしてください。

7月のリフレッシュ研修・翌年3月の新入職員振り返り研修も、今回と同じ顔ぶれで行います。縁あって同期となった皆さんが、職種の垣根を越えた横の繋がりを作る一助となれるよう、私自身も全力で取り組んでいきます。

4月入職の皆さん、これから一緒に働いていく仲間という意識を持ち、助け合い、協力しながら共に歩んでいきましょう。



▲新入職員代表の挨拶



▲電子カルテの研修



▲生活援助技術移乗動作の研修

新入職員 30 名を迎え、4 月 1 日（月）より 5 日間の新人職員研修を行いました。

初日のアイスブレイクでは、自己・他者紹介を行いました。お互いを知るきっかけ作りで、緊張が和らぎ、話しやすい雰囲気となったとの声が聞かれました。AED や車椅子移乗の実践など体を動かす研修では、真面目な中にも声を掛け合い和気藹々とした時間を過ごせたように感じました。接遇研修では、元 CA をされていた長澤さおり先生より、挨拶・表情・身だしなみ・立ち振る舞い・言葉遣いについて教えていただきました。

新入職員が現場に出て、すぐにできることが挨拶や笑顔です。研修で学んだことが実践できる環

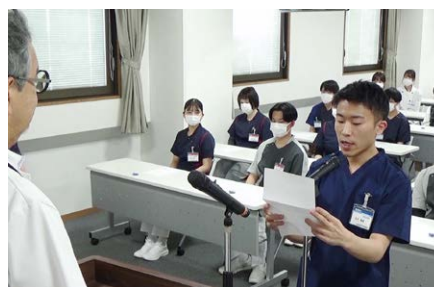
境づくりをしていきたいと思っています。残念ながらしげい病院等の見学では、雨天で重井薬用植物園の見学が中止となりましたが、片岡園長が急遽来院され説明をしてくださいました。

研修後のアンケートに、「重井医学研究所附属病院の理念やチーム医療について聞き、この病院の職員として頑張っていきたい」という言葉を見て、新入職員の前向きな感想に、私自身改めて身の引き締まる思いで研修を終えました。

今後も新人職員のフォローアップ研修を行う予定です。今後も人材育成に力を入れていきたいと考えています。



▲辞令交付



▲新入職員代表の挨拶



▲アイスブレイク



▲心肺蘇生



▲体位変換



▲認知症サポーター研修

能登半島地震 リハビリ職として支援に参加して

しげい病院 通所・訪問リハビリテーション部 日笠 敦夫
リハビリテーション部 橋本 将志
リハビリテーション部 村川 文香

はじめに、令和6年度能登半島地震にて被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

3月11～15日、日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）の一員として、石川県輪島市で活動してきました。

JRATの具体的支援内容としては、①避難所の環境評価、②要配慮者に関する災害リハビリトリアージ、③リハビリ医療資材等の適時・適切な供給、④生活不活発対策、⑤避難生活での役割・活動・

参加等の提案が挙げられます。私たちが活動したフェーズでは、災害関連死ゼロに向けた生活不活発発病の予防と、いかに支援を参加・活動に繋げていくかが求められました。今まで避難所で提供されてきた100歳体操だけでなく、娯楽要素や認知機能復活に繋がるレクリエーションとしてコグニサイズや発声・歌唱、レクリエーションに参加されない方には体操や脳トレなどの配布資料を用いた個別の支援を行いました。

発災から2か経過し避難生活の長期化によって心身ともに疲労が蓄積してきている中で、私たちの活動が少しでも気分転換になればとの思いで参加させていただきました。「普段テレビを見るだけだったから、声を出すことで気持ちがすっきりした」とのお声もいただき、役割・参加の視点での支援の一助として力になれたことは貴重な経験となりました。

最後に、被災地域の一日も早い復興を心より祈念申し上げますと共に、我々の活動を支えてくださった全ての人に、心から感謝申し上げます。



▲西濱室長と平野室長とともに、理事長に活動報告

倉敷警察署から表彰されました

倉敷しげい訪問看護ステーション 副主任 板谷 馨

2月19日、オレオレ詐欺の被害を未然に防止したことで、倉敷警察署から感謝状をいただきました。

その日、訪問先の利用者さんは、いつもと違い落ち着かない様子でした。

問うと「さっきまで変な電話がかかってきたんよ。お金を振り込むように言われたけど、そんなこと身に覚えがない。」と教えてくださいました。

利用者さんは高齢で家族の方と同居されていますが、日中は一人で過ごされており、初めての出来事にどうしたらいいのか困惑されていました。事情を聞いていくうちに落ち着きを取り戻されましたが、その内容は架空の話であると判断でき、真実ではないのでお金は振り込む必要がないことを説

明し、被害を未然に防ぎました。

倉敷しげい訪問看護ステーションでは「信頼」、「安心」、「喜び」をモットーに、利用者さんやご家族の方に関わらせていただいています。今回のように、お力になれたことをとても嬉しく思うとともに、これからも地域の方々、在宅での生活を安心安全に過ごすためのお力添えができるよう日々努めてまいりたいと思います。



しげい病院 制服リニューアル

このたび、社会福祉士の制服を「ポロシャツ」から「ボタンダウンシャツ」に変更しました。色は以前のブルーを継承し、白地にライトブルーのストライプにし、シャツの変更にあわせパンツはベージュからネイビーに変更しました。

また、ボタンダウンシャツに変更したことで、ジャケットを羽織るだけで訪問活動へ行くようになり、手持ちのスーツ等へ着替える手間も省くことができタイパ効果ありです。その上で清潔感ときちんとした印象を持っていただけることを基準に選定しました。

(松倉 翔)

地域連携室

4月より薬剤部はより動きやすく通気性の良い、アシンメトリーデザインが印象的なスクラブタイプのユニフォームとなりました。以前は薬剤師と薬局助手（非薬剤師）が同じユニフォームでしたが、今回、薬剤師は上衣をネイビー（グレーのライン）、ズボンもネイビー、薬局助手は上衣をアイボリー（アクアマリンのライン）、ズボンもネイビーとすることで判別しやすくいたしました。新たなユニフォームで心機一転業務に励んでいきたいと思っております。(辻 卓矢)

薬剤部

この度、念願の新たな制服を迎えることができました。新制服は接触冷感生地採用で伸縮性に優れ通気性に富み、カラーはシックなネイビーを基調とした上下にベージュラインのワンポイントをあしらった小洒落た仕様となっており、医療ドラマに出演しても違和感のない素晴らしい制服です。カラーとデザイン効果でスリムに見られることに期待しながら、新たな制服と共に技士業務を征服して行きたいと思っております。(待場 敏)

臨床工学部



社会福祉士

健康運動指導士

薬剤師

薬局助手

臨床工学技士

看護師 (日勤)

調理師

管理栄養士

セラピスト

看護師 (夜勤)

栄養管理部

管理栄養士の新ユニフォームは華やかなカラー、ピンクです。患者さんからも「ピンクは栄養士さん!」と覚えやすいと思ひ選びました。ピンクといっても、派手すぎない落ち着いたカラーで男性でも着こなせます。調理師の新ユニフォームはシックなネイビーです。火を扱う暑い環境にある調理場でも快適に過ごせる通気性の良いものを選びました。

遠くからみてもわかりやすいので、ピンク・ネイビーをみかけたらどんだん声をかけてください!

(高木 彩乃)

セラピストの制服も8年ぶりに変更しました。選定には制服変更を検討する他部署と協力して、見本の取り寄せ、試着、工場見学、そして選んだ最終候補6着からセラピスト全員による投票で決定しました。

現在の制服より軽くて、通気性・ストレッチ性に優れ、職員が気持ちよく働くことができると思ひます。制服も気分も一新して業務に取り組んでいきます。

(西濱 美絵・平野 圭二)

リハビリテーション部・通所・訪問リハビリテーション部

看護部はこの度約20年間着用した、愛着のあるピンクのユニフォームから、思いきって爽やかな白のユニフォームへとチェンジしました。職員みんなが着たいユニフォームを目指し試行錯誤を繰り返しました。そしてたどり着いたのがこのしげい病院オリジナルのユニフォームです。機能性とデザイン性を重視し、襟は優しい印象を大切に丸襟、男女兼用はすっきりVネックとし選べるようにしました。左腕には、オリジナルの『SHIGEI HOSPITAL』のロゴを入れていただきました。今回も夜勤用のユニフォームもあります。新ユニフォームでやる気も一新! しげい病院看護部はさらに一致団結しより良い看護を提供してまいります。

(守屋 由美)

看護部

2024年度 はあもにい編集委員



しげい病院	松田 圭市 佐伯 博子
しげい腎クリニック早島	松田 佳子
重井医学研究所	北村真優美
重井医学研究所附属病院	永森 未路 井上 有紀 井上 伸一
幸町記念病院	林 亮通 矢吹 静香
はあもにい倉敷	立川 真也

今年度より、しげい腎クリニック早島・はあもにい倉敷からも各1名ずつ加わりました。
このメンバーで、創和会グループの情報をお届けしていきます！

催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「緑さす森に咲く花を楽しむ」

日時：5月26日（日）
10：00～12：00

会場：重井薬用植物園

編集後記

●日本人が桜を愛でていた記録は多く残っており、古くは古事記にも桜の花にたとえた女神が登場し、万葉集でも「春を象徴する花」として桜が数多く描かれています。なぜ桜は古代から人々の心をくすぶり、崇められる対象となってきたのでしょうか。一つ目には『春を待ち焦がれる感情』です。待ちに待った春、動植物は活気を取り戻し、人々の心も明るくなっていきます。二つ目は『命の儚さ』です。今か今かと待ち望み、三分咲き、五分咲き、七分咲き、やっと満開となっても夜間の雨風などで一瞬にして見頃を終えてしまうこともあります。「明日、どうなるかわからない」、この命の儚さと名残惜しさも私たちの心を魅了するのでしょう。（S H）

●2024年度が始まりました。子供たちの学年も上がり、役員も巡ってきました。全校生徒100人ほどの小学校に通っており、6年間に2回学年の役員にならなければいけません。さらに地区の人口も少ないため、交通安全の役員なども強制的に順番にやってきます。なんと今年はその順番が私に回ってきました。小学校の役員2つ、中学2年生の親がやる謎のルールのスーパースポーツ少年団の世話役、さらに中学校のPTA役員まで引き当ててしまいました。今から有給休暇が足りるか…果たしてお役目を果たせるかドキドキしています。（I Y）

社会医療法人 創和会グループ

WEB版はこちら。
バックナンバーもご覧ください。➔



- しげい病院
- 重井医学研究所附属病院
- 重井医学研究所
- 医療法人 三祥会 幸町記念病院

- 倉敷しげい訪問看護ステーション
- 倉敷しげい居宅介護支援事業所
- 岡山しげい訪問看護ステーション
- 岡山しげい居宅介護支援事業所

- 健康増進施設 はあもにい倉敷
- 重井薬用植物園
- 倉敷昆虫館